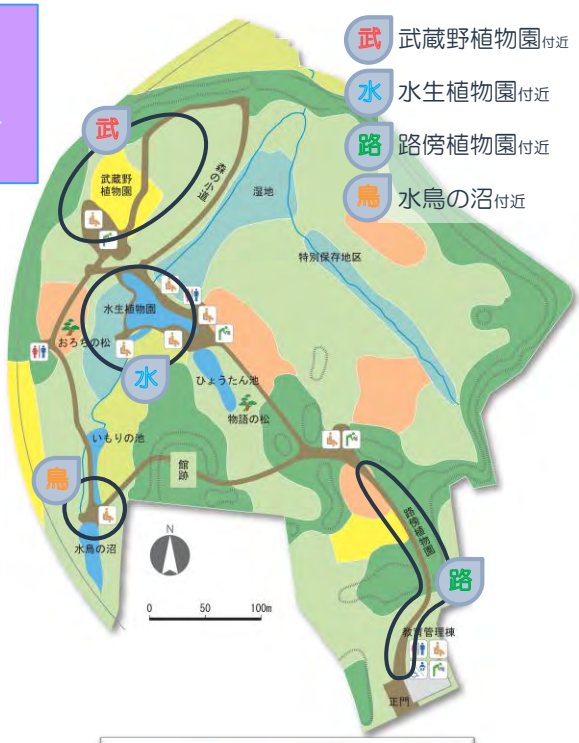
自然教育園の 6月に見ごろの植物



ノハナショウブ 水

ノカンゾウ 武 水

トモエソウ 水

クサフジ 水

アサザ 武

チダケサシ 水

チゴザサ 水

水滴がついたチゴザサ

ムラサキシキブ 武 水 路

シオデ（若芽） 水

ネジバナ 水

オカトラノオ 武

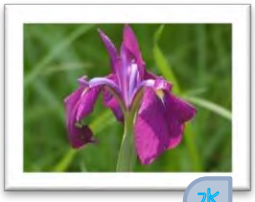
ムクロジ 路 鳥

イヌヌマトラノオ 水

エゾアジサイ 路

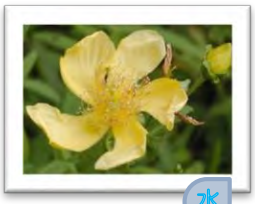
© 2020　国立科学博物館附属自然教育園

いきもの解説



水

ノハナショウブ
＜5月中旬～6月中旬＞
草原や湿地に生育します。牛馬には毒草のため、放牧原野では食べ残され、大群落になります。 「ハナショウブ」は、ノハナショウブを改良した日本独自の園芸植物で、観賞用に様々な色や形の品種が栽培されています。



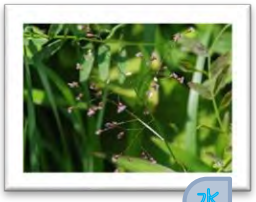
水

トモエソウ
＜6月上旬～7月中旬＞
日当たりの良いやや湿った草地に生える植物です。名前は、花弁が巴（勾玉のような形をした文様）状につくことによります。花は1日でしぼみます。

三つ巴
（みつどもえ）

水

チダケサシ
＜6月下旬～7月中旬＞
小さくて可愛らしい花をたくさん咲かせています。乳茸刺（ちだけさし）の名前は、野山でとったチダケ（菌類の一種チチタケの地方名）をこの茎に刺して持ち運んだことによります。

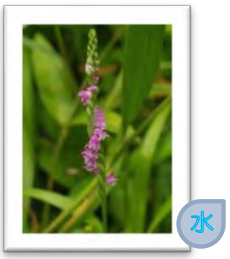


水

チゴザサ
＜6月中旬～7月中旬＞
細い葉を小型のササにみたてて、この名前がつきました。水田耕作跡地や湿地などに群生する植物です。雨の後などに、穂に細かい水滴がついて一面に光る姿はとても綺麗です。

水

シオデ（若芽）
＜6月中旬～6月下旬＞
2～３m程度のびる「つる植物」。出始めの「若芽」はアスパラガスにそっくりで、「山のアスパラガス」とも呼ばれます。味も美味しく、和え物やてんぷらなどにされます。



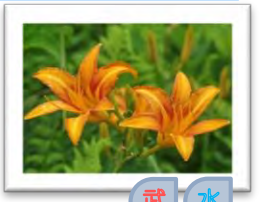
水

ネジバナ
＜6月下旬～7月中旬＞
花のねじれたつき方が名前の由来。ランの仲間でごく普通に見られ、その可憐な姿で人々に親しまれています。八重咲きや白色の花など、変異も多く見られます。是非探してみてください。

水

イヌヌマトラノオ
＜6月中旬～8月下旬＞
花序のようすを虎の尾に見立てたことが名前の由来。園内にもあるオカトラノオとヌマトラノオの雑種（異なる種類が交雑してできた個体）です。花序や葉のかたちは、それぞれの中間的な形質を持っています。

クロスジギンヤンマ
胸部に黒い筋が2本あるところから、この名が付きました。オスの複眼は、透き通った青色をしています。都会の小規模なビオトープでもよくみられるトンボです。



武 水

ノカンゾウ
＜6月中旬～7月中旬＞
野原や堤防などのやや湿った場所を好む植物で、橙赤色の花が群生する姿はとてもきれいです。若葉は甘みがあり、食用となります。花は早朝に開いて１日でしぼみます。

水

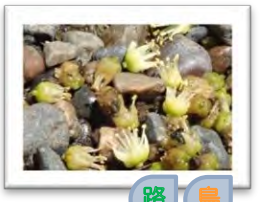
クサフジ
＜6月上旬～6月下旬＞
花などが、フジ（つる性の木）に似ていることから草藤（くさふじ）の名前がつきました。新芽や若葉は食用となります。花の蜜を求めて、モンシロチョウやクマバチなどの昆虫がやってきます。

武

アサザ
＜5月中旬～8月上旬＞
武蔵野植物園の池で、小さな黄色い花を咲かせています。池沼の開発、水質汚染により日本各地で減少しています。

武 水 路

ムラサキシキブ
＜5月下旬～6月下旬＞
花や実が美しいので、紫式部の名を借りたことが名前の由来と言われています。今咲いている小さな紫色の花も可愛いですが、11月中旬から12月頃には、綺麗な紫色の実をつけますので、こちらも是非お楽しみに！



路 鳥

ムクロジ
＜6月上旬～6月下旬＞
黄色いじゅうたんを敷いたかのように、地面に一面に落ちている花の正体は、なんでしょう？答えはムクロジです。花は小さいですが、多量の蜜を出すため、花にはたくさんの昆虫がやってきます。是非、上を見上げて、花を眺めてみてください。

路

エゾアジサイ
＜6月上旬～7月上旬＞
北海道から九州までの日本海側の多雪地などに生育するアジサイです。よく目立つのは装飾花で、花びらのように見えるのは萼（がく）の部分にあたります。

武

オカトラノオ
＜6月中旬～7月中旬＞
丘陵地に生え、花序のようすを虎の尾に見立て、岡虎尾（おかとらのお）の名前がつきました。長崎県ではインノ（犬の）シッポバナ、福島県ではネコノシッポの地方名があり、いずれも動物の尾に例えられています。

© 2020　国立科学博物館附属自然教育園